

MGC



2025 環境安全レポート

Environment and Safety Report



目次

Environment and Safety Report 2025

目次	01
会社概要	02
工場長メッセージ	03
環境への配慮	04
環境・安全基本方針	05
労働安全衛生	07
保安防災	08
環境保全	09
環境に関する支援活動	12
製品・物流安全	13
社会との対話	14

発行にあたって

この「環境安全レポート 2025」は、三菱ガス化学(株)水島工場が取り組んでいるレスポンスブル・ケア（RC）活動（労働安全衛生、保安防災、環境保全、化学品・製品安全、物流安全）について広く社会に報告すること、および自らの活動促進を目的として発行するものです。

このレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン」を参考にしています。

対象期間

RC活動は2024年4月1日～2025年3月31日までですが、一部2025年度の活動を記載しています。

環境パフォーマンスデータは2024年4月1日～2025年3月31日のものです。

発行日：2025年9月
次回発行予定日：2026年9月

会社概要

三菱ガス化学

社 名 三菱ガス化学株式会社（登記社名：三菱瓦斯化学株式会社）
本社所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル
創 業 1918年（大正 7年）1月15日
設 立 1951年（昭和26年）4月21日
資 本 金 419.7億円
事 業 所 **工 場**：新潟工場、水島工場、鹿島工場、四日市工場、山北工場
QOLイノベーションセンター白河
研究所：新潟研究所、平塚研究所、東京研究所

水島工場

水島工場は、自社開発による混合キシレンの分離・異性化をはじめとする様々な技術を駆使して、多様な製品を生み出しています。水島工場の製品は、直接目にすることはありませんが、いろいろな形に姿を変え、私たちの生活に深い関わりを持つ製品群に生まれ変わります。

工場所在地 〒712-8525 岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地
敷地面積 55.7万㎡
従業員数 417名（2025年4月1日現在）



技 術 受 賞

キシレン分離技術

- ・大河内記念生産賞
- ・化学技術賞
- ・化学工学会賞（技術賞）
- ・石油学会賞
- ・日化協技術賞
- ・燃料協会賞

芳香族アルデヒドおよび 芳香族ポリカルボン酸 製造技術

- ・大河内記念生産賞
- ・化学技術賞
- ・化学工学会賞（技術賞）
- ・石油学会賞
- ・日化協技術賞

主 な 製 品

メタキシレンジアミン

芳香族アルデヒド

キシレン樹脂

ネオペンチルグリコール

高純度イソフタル酸

用 途

硬化剤、ポリアミド樹脂

香料、樹脂添加剤

塗料、粘接着剤

塗料、樹脂

PET添加剤、ポリエステル原料

工場長メッセージ

私たちは目指します。 環境保全の推進と安全・安定操業を！！

私たち三菱ガス化学株式会社(MGC)は、「社会と分かち合える価値の創造」をグループミッションとしています。そして、社会の信頼と共感を得るとともに、事業活動を通じた企業価値の向上はもとより、SDGsの達成、ひいては持続可能な社会の実現に貢献することをサステナビリティ推進指針として、事業活動を行っています。

水島工場におきましても、特に環境・安全の確保について常に自らの責任を認識し、社会からの信頼の向上に努めながら、「事業活動の最優先は安全の確保」を安全理念として、日々の生産活動をしています。また、社員はもとより協力会社の方々と安全の名のもとに一致団結して、不断の取り組みを進めています。安全意識の標準化により、誰もが高いレベルで安全活動を実践できる工場を追求するとともに、潜在するリスクの摘出と根絶もしくは低減に全員参加で取り組みながら、保安・防災システムや活動の継続的な改善を図り、事故・災害の防止に努めています。

化学メーカーである当社は、「持続可能な開発」と「循環型社会の構築」の原則のもと、現在の事業活動が将来世代に及ぼす影響を常に考慮しています。そして、高機能でオリジナリティに溢れた各種素材を提供し続け、社会から真に必要とされる企業としての存在感を高めていきたいと考えています。そのために、当工場も1995年よりRC活動を開始し、「環境保全」「労働安全衛生」「保安防災」を柱に、毎年、具体的な目標を掲げて工場全体で活動を推進しています。

2024年におけるRC活動は、「環境保全：環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献」「労働安全衛生：操業における健康と安全の確保」「保安防災：現場における保安と安心の確保」を基本に、各種リスクアセスメントの推進、新技術導入などの取り組みも積極的に取り入れて、より良い成果を求めて活動してきました。特に全国的にも増加傾向の墜落、転落事故に対する安全対策につい

ては、協力会社と共に徹底して実施し、危険個所の設備改善、教育など、設備と意識の両面から取り組んでいます。

また、2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロに抑える「カーボンニュートラル」の達成に貢献するべく、GHGを削減するために、省エネルギー活動や環境負荷低減の具体的な削減計画を立て、対応を確実に進めています。

操業においては、高圧ガス保安法の認定高度保安実施者の認定を取得し、また、ボイラー・第一種圧力容器の開放検査周期認定を継続しています。各々、法規に則った運転、保守、検査により、装置の安全・安定運転の維持に努めるとともに、DX等新たなテクノロジーも活用し保安技術の向上に取り組んでいます。

本レポートでは、当工場におけるRC活動を、写真・図・数値などで具体的にお示ししております。このご報告を通じまして、地域の皆様に、私どもの活動についてのご理解を深めていただければ幸いです。

2025年9月

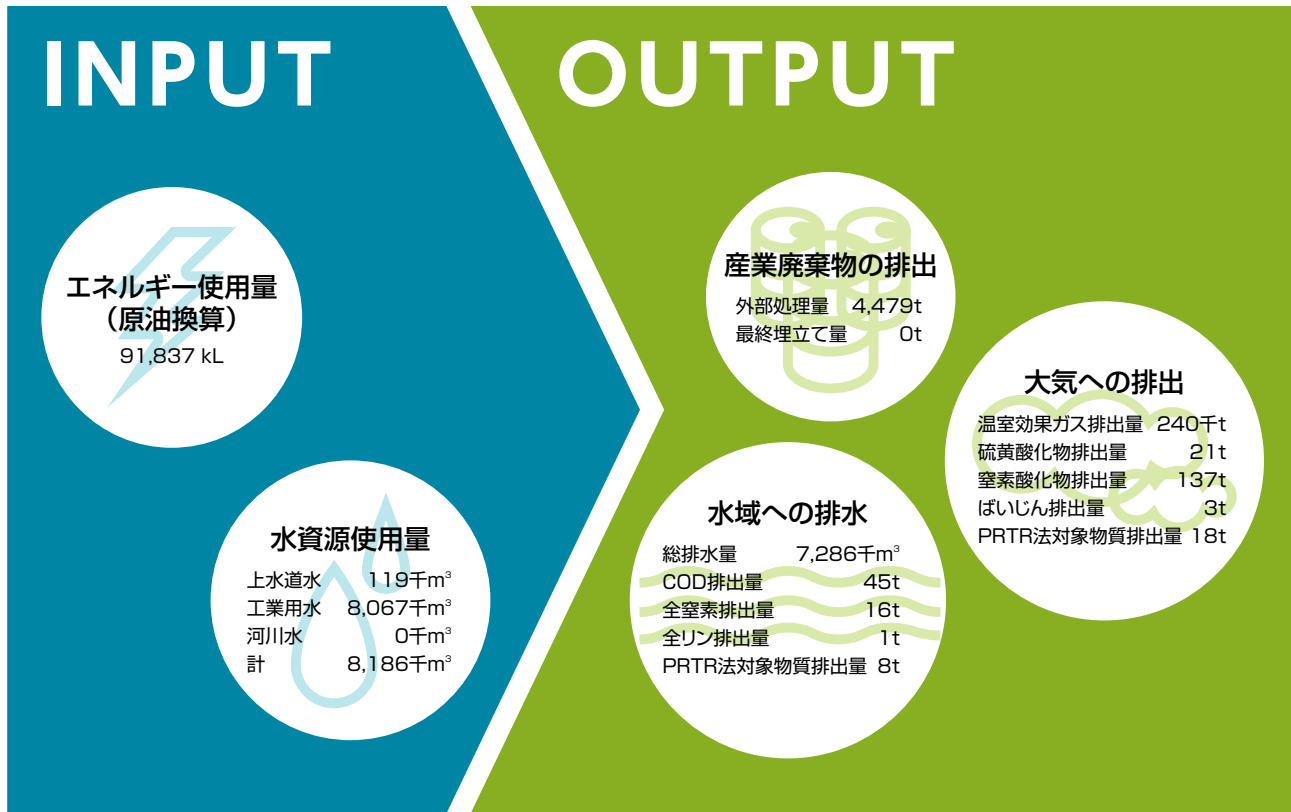


三菱ガス化学(株)水島工場
特任理事工場長
木山 浩

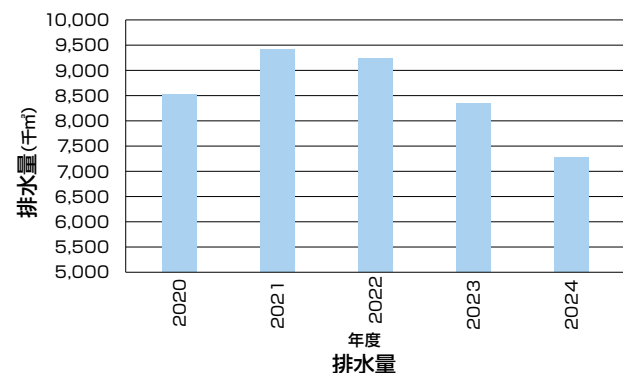
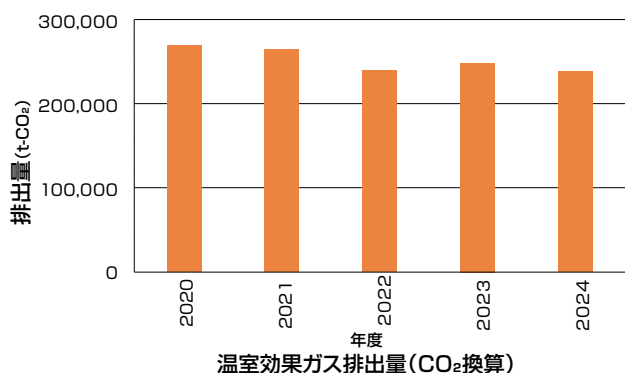
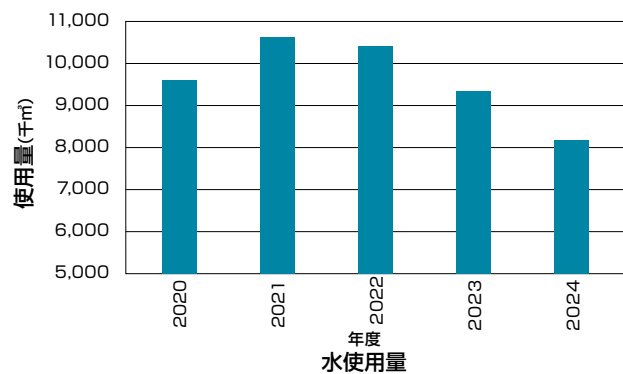
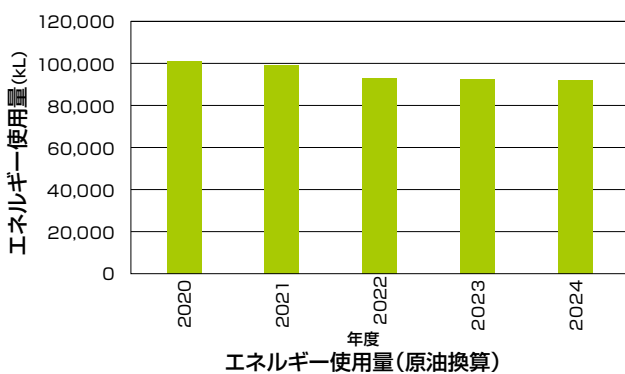
環境への配慮

当工場は、原料資源の効率的利用および環境負荷低減に向けて積極的に取り組んでいます。

2024年度実績



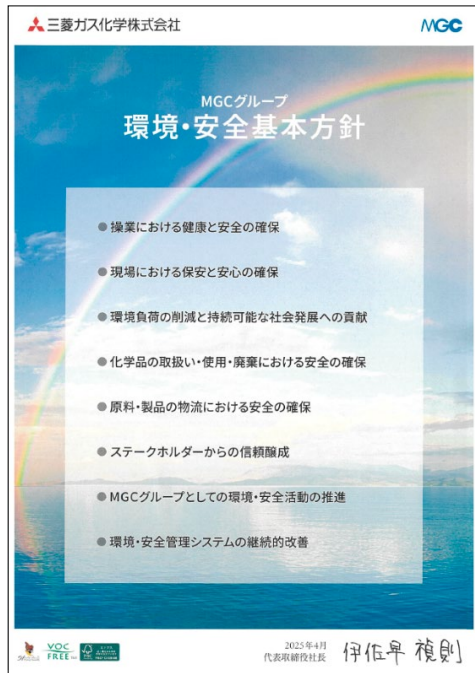
水島工場の主な環境負荷推移



環境・安全基本方針

三菱ガス化学および水島工場は、「事業活動の最優先は安全の確保」という安全理念のもと、社会への貢献並びに環境・安全の確保について自らの責任を認識し、持続可能な開発原則の下で事業活動を地球環境の保全に調和させるよう、さらなる信頼向上に努めております。環境・安全を確保するための方針などを定め、自主活動としてレスポンシブル・ケア(RC)活動にも引き続き取り組んでまいります。

MGCグループ 環境・安全基本方針



MGCグループ 環境サステナビリティ宣言

三菱ガス化学グループは、気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、地球規模での環境の健全性を意識した行動を通じて、将来にわたって持続可能な社会発展の実現に貢献します。

1. エネルギーや原材料、水などの資源に関して環境影響の少ない調達を心掛け、資源の効率的な使用を推進します。
2. 温室効果ガスや環境汚染物質などによる環境負荷の削減対策を推進します。
3. リサイクルなどを通じて廃棄物を削減すると共に、廃棄物を適正に管理・処分します。
4. 環境負荷の軽減や環境の回復・健全化に貢献する製品や技術の開発を促進・普及します。
5. 事業所の所在地における環境関連法令や、国際的ルールを遵守します。
6. 環境に関する取り組み情報を開示し、社会との良好なコミュニケーションを保持します。
7. 教育を通じて環境問題への意識向上を図ります。

水島工場 RC 活動計画

MGC環境・安全基本方針の遵守を基本とし、本社で策定した2025年度全社RC活動計画を基に水島工場の活動計画を策定し、全員参加によるRC活動を継続的に推進しています。

1. 労働安全衛生

自律的な安全活動により、ヒヤリ・ハット摘出、改善活動の継続、類似労働災害の再発防止、ヒューマンエラー撲滅に向けた取り組みの強化、協力会社安全活動の継続支援などを推進し、工場で働く人たちの健康と安全・安心な職場環境の改善に努める。

2. 保安防災

スマートファクトリーの実現と先進的なテクノロジーの検討・導入などによる施設管理の充実、過去の異常現象・トラブルの風化防止、各種リスクアセスメント結果に基づくリスク低減活動、MGCグループの保安防災ガイドラインの活用、進行型災害への対応、保安教育や習得学習の充実により保安と安心の確保に努める。

3. 環境保全

カーボンニュートラルの実現に向けた温室効果ガスの排出量削減、再生エネルギーの導入、廃棄物の発生抑制・有効利用と最終処分量削減、PRTR法および日化協対象物質の排出量削減、生物多様性保全の取り組み推進などを推進し、環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献を果たす。

4. 化学品・製品安全

化学品・製品の性状と取扱い方法を明確にし、取扱者の安全と健康の確保に努める。
取り扱う化学品・製品のリスク評価と管理、化学品管理法・規制に対して確実な対応を行う。

5. 物流安全

物流トラブルの解析と水平展開の継続推進およびグループ物流会社との物流安全情報共有により、原料・製品の物流における安全の確保に努める。

6. 社会との対話

環境安全レポートの継続発行、日本化学工業協会主催の活動やRC地域対話・地域行事などへの積極的な参加により、ステークホルダーとの信頼醸成に努める。

7. RC全般

社内事業所間の連携強化による、RC管理システム(環境・安全・保安管理システム)の継続的改善を行うと共にRC活動を通じて、社会に貢献できる人材の育成を図る。

水島工場は、CSR経営の下、環境・社会・企業統治の各要素に求められる責任を意識した上で、RC精神に則り、自主保安活動の展開を通じて危機管理の徹底・労働災害の撲滅・保安の維持と防災・環境保全・化学品製品安全・物流安全に努め、安全・安心な信頼関係の下に地域社会との共生を図る。

環境方針

1. 環境目標の達成と継続的改善

事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、定量的な環境目標を設定し、その達成に努めるとともに定期的な見直しを図ることで、環境マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスを継続的に改善させる。

2. 法令の遵守と環境保全・保護活動

水島工場が事業活動を行う際に適用される環境関連の法規制・協定を遵守し、物流を含めた環境汚染の予防および気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全に努める。

3. 環境負荷の削減

事業活動においてMGCグループ環境サステナビリティ宣言に掲げる重点項目に沿って、環境影響の少ない資源の調達、資源の効率的な使用に努めると共に温室効果ガスや環境汚染物質などの削減を図る。

4. 環境への意識向上

環境教育を通じて全ての就業者にSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献する環境管理活動を認識させ、環境に対する意識向上を図る。

5. 環境情報開示

環境安全レポートにより環境に関する取り組み情報を開示し、地域社会との良好なコミュニケーションを保持する。

安全衛生方針

1. 労働安全衛生法などの法令を遵守し、本社制定の総合安全管理規程・工場の基本ルールであるMF総合安全管理規程に従い、秩序ある職場を確保する。

2. 三菱ガス化学株式会社災害防止協議会等と連携し、水島工場で働く全ての就業者が、健康で安全・安心に働けるよう、労働安全衛生目標を設定し、労働災害の撲滅と身体の健康、こころの健康増進に向けた取り組みや働き方改革を行い、快適な職場環境の確保と改善に努める。

3. マルチリスクアセスメント、化学物質のリスクアセスメントにより抽出した危険源の排除、潜在リスクの最小化を図り、働く者の安全・健康を確保する。

4. 「安全文化」に根ざした自律的な安全衛生活動の推進を目指し、基本となるヒヤリ・ハット摘出と解析および改善活動、KY活動、指差し呼称、5S活動などのツールを積極的に活用し、事故・災害の未然防止に努める。

5. 全ての就業者は、安全管理の視点を養うため安全衛生に係る教育・研修・訓練を積極的に受け、自己研鑽に努める。

保安防災方針

1. 各種リスクアセスメントや変更管理、日常点検などにより、保安に影響を与える危険源の特定とリスク低減活動を推進し、事故・災害の発生を未然に防止する。

2. 各種監査を有効かつ効果的に実施することにより、保安管理システムの継続的改善を図る。

3. 全ての就業者が特定要求事項を遵守し、設備管理・運転管理・保安管理の強化を図る。

4. 環境・安全基本方針を踏まえた保安管理方針と、全社RC活動計画並びに前年の活動結果を基に保安管理目標を設定して、自主保安のスパイラルアップを図る。

5. 関係行政ならびに水島コンビナート地区保安防災協議会および関係会社と協力し、物流も含めた地域防災とコンビナート事故撲滅に努める。

6. 「安全基盤の強化」「安全文化の醸成などで積み上げてきた知見と最新の情報を活用し、保安教育・訓練および自己研鑽を図り、保安管理レベルの向上を図る。

7. 最新の情報や先進技術の積極的な検証、活用と制御系セキュリティの強化を図り、スマート保安への取り組みを推進する。

労働安全衛生

工場長巡視

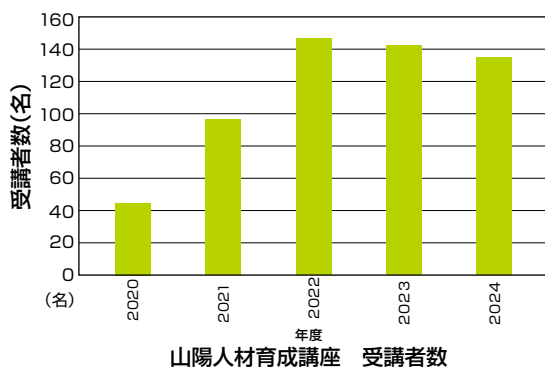
製造課の定修現場に赴き、安全管理・安全対策・安全活動の実施状況を確認しています。



労働安全衛生教育

1. 山陽人材育成講座の活用

労働災害・事故等の発生防止の取り組みの一環として、安全体験やグループワークを通じ安全意識の向上を図ることを目的に毎年多数の社員が講座を受講しています。



2. 安全体感教育

VRを用いた消火器による消火体感、感電や巻き込まれの体感を通じ、危険を疑似体験することで災害の怖さを身近な事として感じ、危険に対する感受性を高めています。



協力会社への支援

工場の安全を守るのは、事業者の責任であり、最優先事項です。協力会社の皆さんと協議会を組織し、定期的な会議を通して安全情報や法令改正の情報共有を図っています。また、優秀な協力会社の表彰、外部講師を招いての講演会を開催し、災害の防止に繋がっています。この他、春と秋の交通安全運動として、各社協力のもと出勤時間に合わせ立哨を実施し、啓発活動を行いました。加えて、ソフトバレー大会を開催し、協力会社の皆さんと共に笑い合い汗を流しコミュニケーションの充実も図っています。



健康の保持・増進に関する取り組み

喫煙率の低減を目指して禁煙外来の紹介や喫煙所の集約に取り組むほか、社外から講師を招き「睡眠セミナー」を行うなど、従業員全体のヘルスリテラシーの向上を目指しています。

また、近年はメンタルヘルスケアの強化にも注力し、令和6年度には効果的な施策を行うためのデータ収集として工場独自の実態調査アンケートを実施しました。

長く健康で働き続けるために、工場全体で健康の維持・増進活動を進めています。



保安防災

高圧ガス認定事業所(認定高度保安実施者)

当工場は、高圧ガス保安法における「認定事業所」として、2年連続運転や自らが完成・保安検査を行うために、日常的に様々な活動や改善を推進しています。また、最新技術を用いた運転管理・設備管理・保安管理にも力を入れ、高いレベルの保安管理技術の向上に向けて研鑽を積み、これまで、認定(完成・保安)検査実施者の認定を取得し、4回の更新を継続してきました。

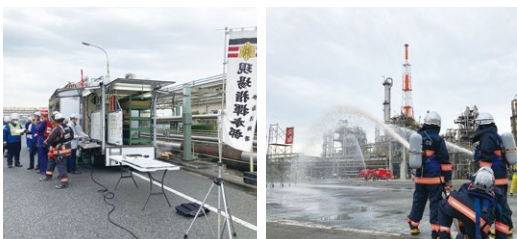
この度、2023年12月の法令改正において新たに創設された「認定高度保安実施者」の新認定制度にチャレンジし、日々の取り組みが評価された結果、2024年9月にB認定において、全国で初めての事業所として新認定を取得することができました。

今後もIoTやAIなどDX技術を駆使したスマート保安やサイバーセキュリティの確保を推進し、更なる自主保安の高度化を目指して、水島コンビナートのトップランナーに追随して行く覚悟です。



工場総合防災訓練

いつ発生するかわからない災害を想定し、その備えとして、災害を早期に鎮圧するための訓練を工場全体で毎年2回実施しています。シナリオを公開しないブラインド訓練にすることで、より一層実態に即した実践的な訓練を行っています。



ボイラー等の開放検査周期認定制度

ボイラー及び第一種圧力容器(以下、「ボイラー等」)において運転や保守に関する管理体制が確立され、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われているボイラー等で所轄労働基準監

督署長が認めたものについては、開放検査周期認定を受けることが出来ます。ボイラー等は、毎年開放した状態で性能検査を受けることとなっていますが、この制度により開放検査周期を伸ばすことができ、当工場は2年認定及び4年認定を取得しています。また、5年毎の認定更新審査も継続して合格しています。

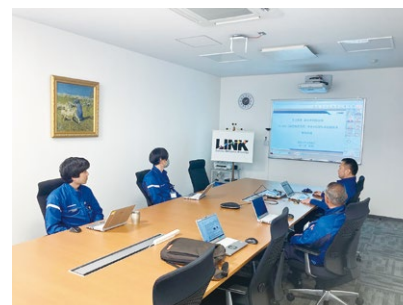
大規模地震への備え

南海トラフ地震などの大規模地震では、中国電力からの電力供給が遮断される恐れがあります。弊社では自家発電による電力も併用していますが、大規模地震によって、この両系統が遮断されると想定し、独立した非常用発電機を設置しています。電力喪失時には、速やかに非常用電力を確保できるように、防災本部から行う指示や現場で行う操作訓練を行い、有事に備えています。



全社連携の保安力強化

全社にまたがる安全保安活動はAZプロジェクトから始まり、Bridge活動に引き継がれ現在はLINK活動として取り組んでいます。LINK活動は各事業所間で実施している労働安全・保安防災活動の情報交換を活発化し、切磋琢磨することにより現場の自主保安力を高い水準に引き上げ、安全安定操業に寄与することを目的としています。現在、製造部門、工務部門、研究部門、荷役・物流部門の4つのLINK活動にて、事故・災害を防止するための積極的な活動を行っています。



環境保全 省エネルギー・GHG(温室効果ガス)排出削減

省エネルギー・GHG(温室効果ガス)排出削減

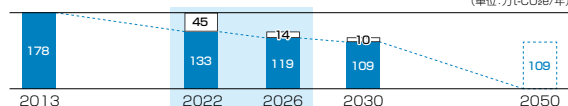
当工場では当社のミッション「社会と分かち合える価値の創造」の一環として地球規模での気候変動問題の解決に貢献すべく、「サステナビリティ経営の推進」のもと、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速させ、地球温暖化防止に努めています。

工場の活動は、化学プラントの技術的な改善やユーティリティ設備の効率的な運用が中心であり、継続的なエネルギー使用量の削減を意識して取り組んでいます。2024年度もGHG関連テーマについて16件完遂しました。

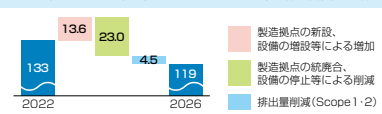
その達成度を表す当工場の省エネルギー活動の推移を図に示します。指標として二酸化炭素排出量を用いており、MGCは2013年度を基準として2030年度0.61を目指しています。

MGCのGHG排出削減長期目標

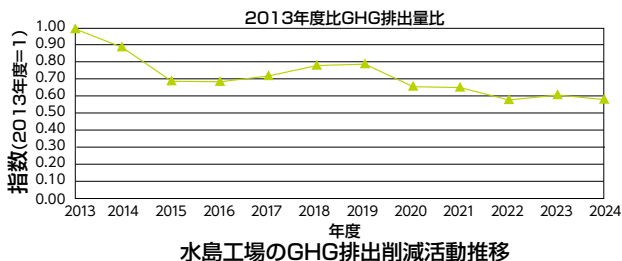
■GHG排出量の推移、GHG排出量の削減・増加項目 (単位: 万t-CO₂e/年)



2022年から2026年の事業ポートフォリオ改革に伴う排出量の増減



期間	2013-2022	2023-2026	2027-2030	2031-2050
製造拠点の新設、設備の増設等による増加		▲13.6		
製造拠点の統合、設備の停止等による削減		23.0	2.6	46.9
R&D協働による排出量削減*				
排出量削減 (Scope 1)	45.0	1.9	2.6	10.0
燃料転換		1.1	0.2	
排出量削減 (Scope 2)		1.5	2.3	30.5
再生エネルギー導入、移行エネルギー活用			2.4	21.6
エネルギー供給会社との協働				



2024年度は、新規装置の稼働率上昇に加え、既設各装置の生産量が前年度よりも増加しました。一方で、高圧ボイラーによる大型環境対策プロジェクトが完了したことに加え、絶え間ない省エネルギー活動を積極的に取り組むことでGHG排出量は減少しました。取り組みの成果は着実に積み上がってきています。その具体例としては、① 効率の良い高圧ボイラーによる単独運転化、② 余剰低圧蒸気の有効利用、③ 蒸留塔運転最適化による使用蒸気量削減などが挙げられます。中でも①は、年間約20,000 tの二酸化炭素排出削減となり、大きな成果を上げています。工場全体の省エネルギー活動の積み上げ量としては年間約24,700 tの削減に繋がりました。この他にも、2022年度から再生エネルギー電力を一部導入していますが、継続的に利用ができるように交

渉を続けています。

2050年の脱炭素社会に向け、今後もこれまで以上にエネルギー効率の向上やグリーンエネルギー活用の検討、エネルギー転換に向けた取り組みを続け、環境負荷低減、省エネルギーおよび環境保全に貢献していきます。



単独化工事で GHG 削減に成功した高圧ボイラー

カーボンニュートラルへの取り組み

当工場は、バイオマス原料などサステナブルな原材料由来の製品であることを保証する国際的な認証制度であるISCC PLUS認証を取得するとともに、製品の生産から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたって排出する温室効果ガスの総量を示すカーボンフットプリント、およびGX推進法に基づく排出量取引制度・化石燃料賦課金等の報告値の、信頼性・透明性を確保するための準備を整え、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

また、岡山県主催の「水島コンビナートカーボンニュートラルネットワーク会議」のメンバーとして、カーボンニュートラル実装化について検討を進めるとともに、JFEスチール株式会社、三菱ケミカル株式会社、及び当社の3社で、製鉄プロセスから発生する副生ガスを原料に用いてメタノールを製造し、そのメタノールからプラスチック原料となるプロピレンを製造する実証実験を2026年度から開始します。現在、本実証実験用のメタノール製造装置(CM-1装置)の建設を進めています。今後、CM-1装置を最大限に活用して、水島コンビナート内のサプライチェーンを通してサステナブルな社会の構築に寄与すべく、環境循環型メタノール構想(Carbopath™)を推進します。



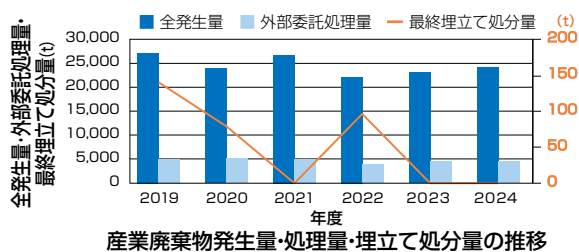
産業廃棄物の排出抑制と削減

3R^{注1}活動

当工場では、設備の新増設などに伴う産業廃棄物の発生を抑制・削減するために、技術・設備的改善を行っています。また、発生した産業廃棄物のうち、廃油系は燃料として焼却施設で再利用し、廃酸は中和剤など、金属くずはスクラップ等の再資源化として一部を有価売却しています。

産業廃棄物の外部委託処理状況などの現地確認

当工場から発生する産業廃棄物および特別管理産業廃棄物^{注2}は、廃油・汚泥・廃酸・木屑・廃プラスチック・燃えがら・ばいじんなどがあります。産業廃棄物は、契約締結している産業廃棄物収集運搬・処分会社に処理を委託しています。当工場の2024年度の産業廃棄物の全発生量は24,097tでした。そのうち、外部委託処理量は4,479tでした。最終埋立て処分量は2023年度からゼロtを継続しています。また、県内外の委託処理会社を訪問し、廃棄物の適正な処理状況や管理体制等を確認しています。



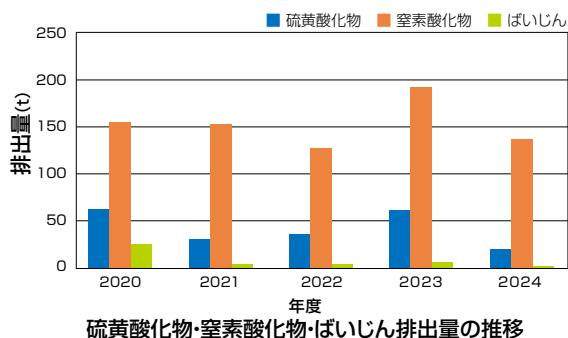
ゼロエミッション

ゼロエミッション（最終埋立て処分量をゼロに近づける）は、MGCでは最終埋立て処分量を廃棄物全発生量の0.2%以下に設定し、削減に取り組んでいます。

これからも最終埋立て処分量の削減、さらなる廃棄物発生量の抑制、有効利用による外部委託処理量の削減に取り組んでいきます。

化学物質排出削減 大気汚染防止

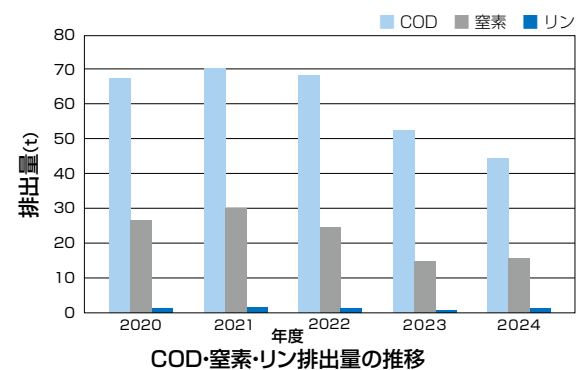
当工場から排出される大気汚染物質について、大気汚染防止法などに定める規制基準を遵守することで、大気汚染防止および排出量削減に努めています。ボイラーなどの燃焼時に発生する排ガスについては、排ガス量、窒素酸化物、硫黄酸化物の測定値を連続監視測定設備により、岡山県環境保健センターへ送付しています。また、オキシダント情報発令時はさらなる排出削減を図っています。



水質汚濁防止

当工場の排水について、水質管理を適切に行い水質汚濁防止法などに定める規制基準を遵守しています。

工場各所にはpH計、TOD計などの測定機器を設置し、異常の早期発見に努めています。また、活性汚泥処理設備では集合した工場排水を処理し、COD負荷量・全窒素・全リンを24時間連続で分析しています。工場外排水出口である水島港への放流水も、毎日COD値などの分析を行っています。

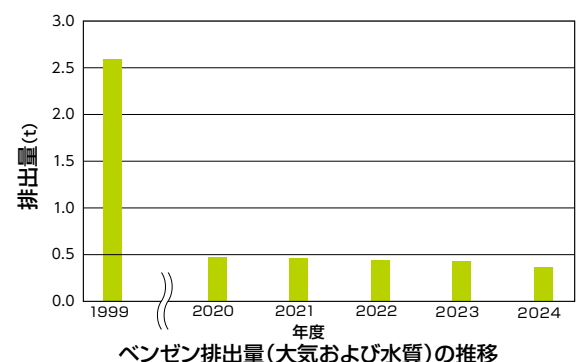


PRTR届出対象化学物質の排出量削減

当工場では毎年対象物質の排出量を把握するとともに、削減に向けた取り組みを行っています。当工場でも最も排出量の多い物質はキシレンであり、その多くはタンクからとなっています。排出ガス回収装置の更新などの削減を進めた結果、大気へのキシレン排出量は、2005年度の85tに対し2024年度は11tでした。今後も設備機能の維持に努めていきます。

有害大気汚染物質（ベンゼン）排出量削減

当工場では、水島コンビナート地区周辺の大気中ベンゼン濃度低減に向け、コンビナートのベンゼン取り扱い各社とともに、環境基準値達成のために監視および削減対策に取り組んでいます。



注1: Reduce (発生削減)・Reuse (再利用)・Recycle (再資源化) の3つの取り組み。
注2: 爆発性・毒性・感染性・その他の人の健康または生活環境にかかわる被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物。

環境保全 環境マネジメントシステム

環境保安室長のメッセージ

当工場が位置する倉敷は、瀬戸内の穏やかな気候に恵まれた地域にあり、近隣には倉敷美観地区などの観光地もあり、多くの観光客が訪れています。倉敷の南に位置する水島地区は、石油化学製品などを製造する企業が多数集まる、国内有数のコンビナート地帯です。しかしながら、昨年度は18件ものコンビナート事故が発生しており、非常に憂慮すべき状況です。当工場においても、昨年1件のコンビナート事故が発生しており、再発防止と労働災害の撲滅に向けた取り組みを強化しています。

当社では、RCマネジメントシステムのもと、各RCコードに対してPDCAサイクルに基づく目標管理と継続的改善を実施し、事故や労働災害の撲滅はもとより、環境保全にも積極的に取り組んでいます。

また、「MGCグループ環境・安全基本方針」を策定し、「操業における健康と安全の確保」「現場における保安と安心の確保」など、8つの重点項目を掲げて活動を推進しています。この他、気候変動の抑制、循環型社会の構築、地球規模の環境課題に対しても意識を持ち、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

さらに、水島コンビナートにおいては、脱炭素社会の実現に向けて自治体や各企業と連携し、カーボンニュートラルの達成に向けた活動にも取り組んでいます。今後もMGC水島工場は、環境保全を一層推進するとともに、保安防災・安全衛生活動の強化を図り、地域社会との信頼関係を築きながら、安全・安心な共生を目指してまいります。



環境保安室長
藤田 直樹

ISO14001 認証

当工場は、2000年に認証取得後、環境マネジメントシステムの効果的な運用により、事業活動に伴う環境に対する影響の軽減に向けて、環境対策の継続的改善を行っています。今後も環境・保安防災・安全衛生を基盤とし、継続的な社会貢献を行っています。



ISO14001 認証書

ISO14001 付属書

環境保全目標の設定・実行による継続的改善

MGCグループ環境サステナビリティ宣言に基づき、環境の健全性を意識し、環境負荷低減・改善活動を効率的に取り組んでいます。工場全体で、省エネルギー・大気・排水・廃棄物・カーボンニュートラル(温室効果ガス)・水資源の管理・生物多様性の保護などの環境管理に関する年間の活動目標を策定し、計画的に活動を行っています。

内部監査

当工場の保安管理システム^{注3}が、関連法規制・保安管理方針・諸規定類に準拠し、効率的かつ有効に運用されているかどうかを確認・検証し、評価・助言するために内部監査を定期的実施しています。

内部監査の種類

RC内部監査	高圧ガス認定内部監査
環境内部監査(ISO14001)	協力会社へのRC監査
本社によるRC監査	本社による高圧ガス認定事業所監査



本社による RC 監査

次年度への改善活動

当工場のRC活動・監査結果に対して、工場長が妥当性・有効性の評価を行い、次年度の活動に向けて、さらなる改善活動を行っています。

^{注3}: 環境・保安防災・安全衛生管理活動を維持・改善するシステム

品質保証室の環境に関する支援活動

環境関連に関する支援

品質保証室は、工場内で製造出荷される製品の品質検査・保証だけでなく、生産活動によって生ずる環境影響についても環境分析面で支援しています。

得られた分析結果を基に工場から排出される物質の法規制値や届出値の遵法性を確認・監視しています。



品質保証室長
渡邊 将史

環境関連分析の内容一覧

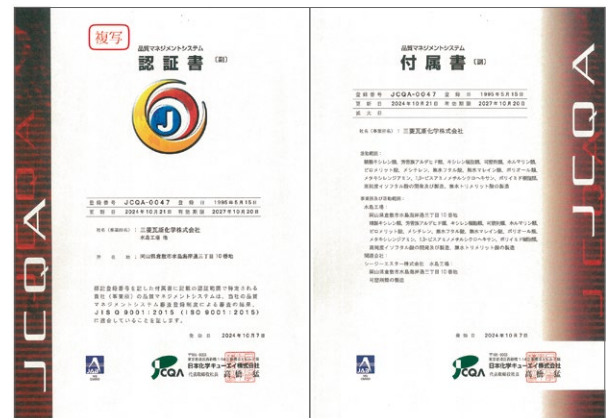
- ① 排水：製造課の排水を分析し、法規制に関わる物質の監視、及び排水負荷量削減に寄与。
- ② 大気：特定施設の排出ガス、有害大気汚染物質（ベンゼン）等を測定し、法規制値、届出値等の遵法性を確認・監視。
- ③ 産業廃棄物：製造課の工程分析及び廃棄物処理法に関わる分析に対応することで、廃棄物の削減に寄与。
- ④ 土壌：工場内の工事・掘削等で発生する残土の土壌試験を行い、有害物質の有無を確認。
- ⑤ 省エネ：各部門の省エネ対策における分析面での支援。
- ⑥ その他：PRTR報告用分析、公害健康法分析の実施。



環境分析の様子（サンプリング風景）

ISO9001 認証

1995年5月15日にISO9001品質マネジメントシステムの認証を取得しています。社会のニーズに応え、有用で安全性及び信頼性の高い優れた製品・サービスを提供し、顧客・消費者の満足と信頼を獲得する為、ISO9001の基本理念に則り日々の改善・改良によるコストの最適化と安定・安全な製品の提供に努めています。



ISO9001 認証書

ISO9001 付属書

顧客ニーズによる環境関連物質調査

当工場の製品を購入して頂いている顧客から、製品に含まれる環境関連物質の調査や測定依頼が数多く寄せられます。このような顧客ニーズには速やかに対応を行います。

また、顧客ニーズ対応だけでなく、定期的な製品中の有害物質調査や、新たな懸念物質についての国際的な化学物質管理の動向を注視し、品質の維持に努めています。

環境関連物質調査内容一覧

- 環境負荷物質調査
- 原材料に関する調査
- 化学物質含有調査（SVHC*含有調査）
- RoHS指定物質含有調査
- 特定化学物質含有調査
- グリーン調達対策物質に関する調査と非含有証明

※人の健康および環境に対して非常に高い懸念を抱かせる物質。

製品・物流安全

製品の安全輸送

化学製品を輸送する者の責務として、製品の性状・安全性・取り扱い方法を明確にし、それらを扱う全ての人の健康と安全、および環境を守る様々な活動を展開しています。

当工場の製品は、適正な荷姿でお客様にお届けできるよう、充填・包装作業、運搬に係る全ての工程において、安全管理および環境対策を行うことで、物流トラブルの削減に努めています。



原料物流GL
柿木 明

作業スキルの維持向上・防災活動への取り組み

現場で実際に物流業務に携わる実務担当者は、栈橋でのオイルフェンス展張訓練を毎年行っています。また、物流業務の一部を委託しているMGCトランスポート(株)は、定期的にフォークリフトの講習(座学・実技)を実施しています。普段運転する機会の少ない方にとっても、実際に操作を体験できる貴重な機会となります。訓練や講習を通じて、作業スキルの維持・向上を目指し、継続的に取り組んでいます。



オイルフェンス展張訓練の様子



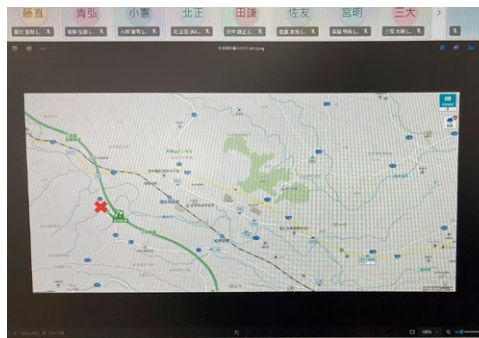
フォークリフト講習の様子

物流事故連絡訓練

輸送中事故における連絡訓練を毎年行っています。今回は事故現場と水島工場の距離が遠く、すぐに駆け付けられない場合を想定して、他事業所へ応援を要請する広域応援要請を盛り込んだシナリオで訓練を実施しました。本社へ第一報を入れた後、MGCトランスポート(株)へ資機材と共に現場駆け付けの要請を行いました。新潟工場に応援を要請し、現場と本社、両工場をWeb会議システムにて繋ぎ、リアルタイムでの情報や対応について共有できました。他事業所との共同訓練は初の試みでしたが、グループ員の役割確認と実際に起こった際の課題・改善点に気付くことができ、今までとは異なる訓練を体験することができました。今後もより実態に即した想定訓練を実施していきます。



関係各所へ連絡



Web 会議システムによる資料共有



緊急資機材搬入

社会との対話

リフレッシュ水島港クリーン大作戦

水島港周辺の清掃活動に参加しました。約100名の社員及びその家族が参加し、栈橋付近の清掃を行い水島港の美化に貢献しました。



高校生向け メタノール提供

地域の工業高校2校に実習用のメタノールを提供しました。またメタノールの充填見学や缶へのラベル貼り体験を行い、当日参加した学生の方には、メタノール事業を通じた当社のカーボンニュートラルへの取り組みについても学んでいただきました。両校へ提供したメタノールは、バイオディーゼル代替燃料の製造実習や、循環型農法(アクアポニックス)の取り組みに使用されています。



学生向け工場見学会実施

県外を含む近隣地域の高校・高等専門学校より工場見学を受け入れました。製造装置や物流施設の見学を実施し、普段見ることのない化学工場の裏側を体感していただきました。また高等専門学校向けには研究技術部の業務説明、カーボンニュートラルに関する説明なども行い、当工場の業務内容や取り組みについても理解を深めていただきました。



RC 地域対話

当社は、日本化学工業協会レスポンシブル・ケア(RC)委員会の一員として、「環境・健康・安全」に配慮した自主的な取り組みを進めています。特に、工場周辺にお住まいの皆さまとの対話は重要と考え、定期的に「地域対話」を開催し、事業活動や安全対策についてご説明するとともに、ご意見を伺っています。現在、次回(2026年1月開催予定)に向けて、近隣の関係企業と協力しながら準備を進めています。これからも地域とともに、安心・信頼される企業を目指してまいります。

三菱ガス化学株式会社

制作部署&お問い合わせ

水島工場 環境保安室

〒712-8525 岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地

TEL : 086-446-3826 FAX : 086-446-3890